

ベートーヴェンが変わる!!

たさもとゆうぞう
滝本裕造 著

偉大なる普通人

大天才に学ぶ 日本を元気にするシリーズ
ISBN4-9901437-0-1
定価 1,200円+税
B6判 230ページ

副題

ほんとうのベートーヴェン

常識を覆す
秘められた衝撃



絵 榎井 超光



著者 滝本裕造 (たさもとゆうぞう)
1932年、京都市に生まれる。京都大学大学院美学美術史専攻。大谷大学教授を経て、京都市立芸術大学音楽学部教授。音楽美学、ピアノ教育。
1998年停年退職後、京都ベートーヴェン研究所主宰。中国西安音楽学院栄譽教授。主要著書「ドイツ民謡選」(共著、三修社)、世界の名著「近代の芸術論」(共訳、中央公論社)、「西洋文化と音楽」(共訳、音楽之友社)、「ピアノの基礎」「モーツァルトの本質」「ベートーヴェンの本質」「日本音楽と中国音楽」(美学社)、「ベートーヴェンの独創性」(北京世界知識出版社) など。

京都が生んだ世界の打楽器奏者 ツトム・ヤマシタ氏 推薦!



ツトム・ヤマシタ氏プロフィール

京都市生まれ
幼少より打楽器演奏に天才ぶりを発揮。
中学生時代から、朝比奈隆指揮の大阪フィルハーモニー交響楽団の打楽器奏者など、多くの楽団に客演。米国ジュリアード・パークレー音楽院留学、すぐに打楽器担当講師になる。英国、フランスに渡り、「赤い仏像」として音楽集団を結成して活躍グラミー賞の作曲プロデュース部門にノミネートされる。ヨーロッパで大センセーションを巻き起こす。現在、サヌカイト楽器による幽玄の美を追求。

これがほんとうの ベートーヴェンなのだ!!

やさしく、わかりやすく書かれた中に、
本当のベートーヴェン像とその本当の偉大さなど、
いくつもの新しい発見ができる興味ある一冊といえる。
新しい世紀における必読のベートーヴェン入門書である。

わが滝本先生の痛快の一冊といえる。

取扱店

発行 **KB社** (関西文化発信社)
〒540-0006 大阪市中央区法門坂1-5-17
TEL 06-6816-7100 FAX 06-6947-1047
<http://www.adat.co.jp/beethoven>
E-mail kbh@k7.dion.ne.jp
振替 00950-9-184400

先生方にこそ、ぜひ読んでいただきたいのです!!

生徒さんや学生さんに音楽を語る立場にある先生方に!!

★ひと昔まえの伝記にあったベートーヴェンのイメージをいつまでも引きずっておられないでしょうか? 新しい世紀です— ベートーヴェンは大きく変わりつつあります!!

★世界中に広まったこれまでの美化と神格化されたベートーヴェン像を正します。近寄りがたい神格化されたベートーヴェンから、わたしたちにより身近なベートーヴェンにです。

★「聖人」ではなく、多くの短所や欲をもっていた人間ベートーヴェンこそ、現代社会に生きるわたしたちにとって実に、学ぶべきことが多いと思われるのです。

この本のセールスポイント — 秘められた衝撃

★半世紀に及ぶ著者の膨大な文献資料の精査と鋭い洞察力から生まれた「本当のベートーヴェン」入門書

意図的に仕立て上げられたベートーヴェン伝記はいうにおよばず、権威あるセイヤーの「ベートーヴェン伝」や「ベートーヴェンの手紙等の書簡集」、「ベートーヴェンの会指帳」からさえ、その精査を欠いた引用や勘呑みを著者は、厳しく戒めます。例えば、ベートーヴェンが友人や知人に「お金がない、困っている」と訴えたり、ボロ服を着ていたことや人々が哀れんだ記録が、即貧乏だとはいえないと主張します。

★従来の常識を覆す — 塗り替えられなければならない「楽聖」像

ベートーヴェンの晩年の無給の秘書シンドラーや理想主義者フランスのノーベル文学賞作家ロマン・ロランたちによって生み出され、世界中に広まった「貧困」、「難聴」、「孤独」の苦難の道歩む「楽聖」、「英雄ベートーヴェン」像を正します。これらは「楽聖」ベートーヴェンを強調するための舞台装置だったと著者はいい切ります。ベートーヴェンを不幸な人間に仕立て上げ、それでもなお「傑作」といわれる名曲の数々を作った大音楽家だと。

★この小著に込められた意図とは — 新しいベートーヴェン像の発信

ドイツ、オーストリア、フランスなどから世界中に広まった、従来の「不幸」に仕立てられたベートーヴェン像を改め、新しい世紀に入った今こそ、「本当のベートーヴェン像」を発信しようとの試みです。そのため、たくさん繰り返された話題や記録の羅列ではなく、ベートーヴェンに対する従来からのさまざまな誤解の払拭、ベートーヴェン音楽の本当のすばらしさの特徴などポイントを絞ってやさしく書かれています。

これまでのベートーヴェンのイメージが大きく変わるかも知れません。音楽の専門家のみなさんへの読み直しのベートーヴェン入門書ともいえます。

★サラリとですが、画期的! これまでの学者、研究者、文筆家、伝記作者たちが陥った数々のあやまちをも正します。

【主な内容】

これまで清く真しく正しいイメージの強いベートーヴェンでしたが、実際はお金、名誉、権利、女性、お酒、食事などに大変こだわった普通人としての顔をいっばいもっていたこと/決して近寄りがたい理想化された「聖人」ではなかったこと/親しみのある人間的な音楽家でした/晩年まで聞こえていた耳/意外に豊かだった生涯/幸福な一生/モーツァルトもベートーヴェンも成功の秘訣は、わが国が世界に誇る世阿弥の芸道論の実践にありました マリー・アントワネットの弟ボンの退位後は、同年のモーツァルトの弟子/音楽における並ぶもののない気高い精神はなぜ、生まれたのか。その源流について/最高度に恵まれた幼少、青年期のボンの教育環境/早熟の天才/勉強の天才/独創と発明の天才/処刑されたベートーヴェンの先生/なぜピアノの即興演奏で音楽の都ウィーンをまたたくまに征服できたのか/ピアノの即興演奏に敗れた名手ゲリネクはベートーヴェンを評して「あれは悪魔だ、モーツァルトさえ、あおはできない」/ピアノとピアノ音楽の本格的な発展は、ベートーヴェンから始まった/音楽の質的大転換/美しい優雅な音楽から魂の奥底を揺り動かす音楽の創造へ/なぜ、むずかしい音楽を作り出したのか/職人音楽家から芸術音楽家への道/芸術音楽の誕生/三度音感の音楽本場の第九交響曲とは、シラーの「歓喜の歌」は、安眠の産物? ベートーヴェンの本当の思いとは、帰還した詩人シラーなど

●文字を大きく、読みやすく、やさしい文章、中学生からご年輩の方々にも読んでいただけるように、配慮しました。(発売 2002年12月10日)

目次	はじめに	目次
序章 世阿弥とモーツァルトとベートーヴェン	その成功の秘訣	
第一章 偉大なる普通人 聖人ベートーヴェン?	1 難聴と作曲 本当の耳の真実	
2 引つ越した家 住いたく病とその理由		
3 女性とベートーヴェン 夫もての音楽家		
4 恋愛—不滅の恋人— 不倫?		
第二章 天才才の誕生の源流 最高度に恵まれた教育の数々 ポン時代		
5 道楽家の高徒 優れた音楽環境と幼少期からの教育		
6 善良な父親 悪者にされてきたヨハン?		
7 ベートーヴェンの内書 「礼儀正しい、ただし、貧乏」		
8 ネーフェ先生 音楽の核心を学ぶ		
9 ベートーヴェンの教壇法とピアノの教え方		
10 ブロイニング家 貴族教育 音楽内容のマグマ		
11 シュナイダー教授 共和主義思想 音楽革命のはじまり		
12 即興演奏の名手 モーツァルトを上回る演奏力 成功の秘		
13 即興演奏の三つの型 変奏、展開、幻想		
14 演奏と音楽の特徴 レガートと迫力		
15 ピアノの改良 ベートーヴェンのあくなき要求		
16 「エリク」のために 「つまらない音楽」		
第三章 音楽の質的大転換 音楽の発明王 前例を次々に破る、新しい音楽		
17 三度音感の音楽 奇妙な転調		
18 変わった表現法 強弱法と速度法		
19 「ラズモンスキー 飲茶四重奏曲」 支持者たちも理解できなかった音楽		
第四章 傑作と創作		
20 本当の「第九交響曲」 フリーメーソンの歌 シラーの周辺り		
21 「戦争交響曲」 人受けする音楽		
22 マイナナー形式の音楽 序曲、歌曲、パガテル		
23 三種の批評 「長い、難しい、奇妙だ」		
第五章 余と名譽		
24 リヒノフスキー侯爵 ウィーンの音楽サロン 立場の逆転		
25 ルドルフ大公 新しい型のパトリオン		
26 権利意識 版権と裁判		
27 作品の献呈 金と名譽の追求		
28 アリデミー 個人的利益のための音楽会		
第六章 芸術音楽 音楽を藝術にしたベートーヴェン		
29 芸術音楽の創造		
30 「作品」という概念		
第七章 楽壇をベートーヴェン		
31 死と子孫		
32 幸福なベートーヴェン		
あとがき		
1 補聴器とメトロノーム		
2 金と名譽		
3 貴族と平民		
4 ぬ「ドゥー」について		
5 ポン宮廷楽団		
6 いたすら弾き		
7 啓蒙思想		
8 移調と転調		
9 ベートーヴェンの晩年		
10 ピアノとワグネル		
11 メヌエットとスケルツォ		
12 古典的転調		
13 トルコの楽譜		
14 絶対音楽		
15 フリーメーソン		
16 ロマン派の先駆的音楽		
17 ヴァグネルとベートーヴェン		